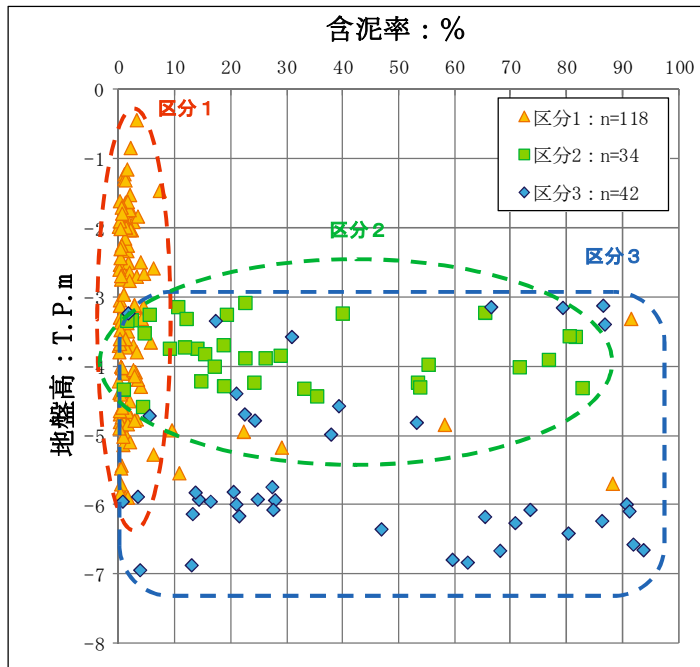


■浚渫の影響評価 ～ハビタット区分2の指標種に対する影響評価①～

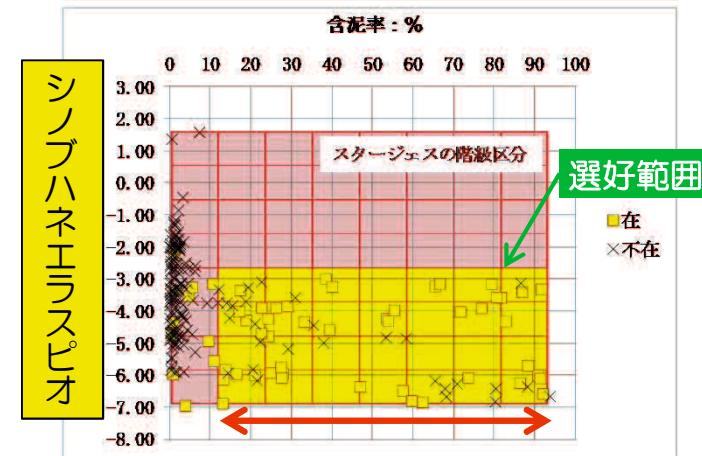
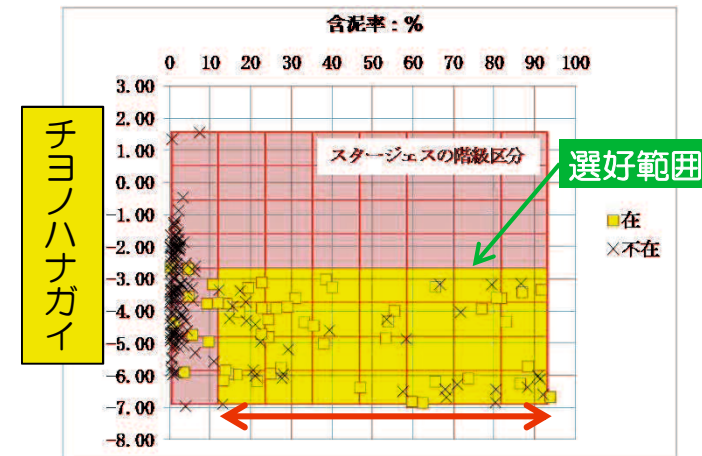


前回の検討会で課題であった区分2の指標種の面的な生息可能場について、以下のような仮定を設けた。

- ①区分2と区分3には、一定ではないものの、ある程度のシルト・粘土を含む底質が堆積している。
- ②チヨノハナガイ、シノブハネエラスピオの生息評価モデルは、区分1の様な砂質ではない環境で、ある程度のシルト・粘土があれば選好性があるということを示している。
- ③すなわち、区分2と区分3に常に泥があるということを前提に、**地盤高だけで生息可能場を予測する。**
(区分1は砂質なので地盤高だけで評価、区分2はある程度泥質なので地盤高だけで評価ということ)



区分2と区分3の含泥率の予測は困難であるが、ある程度のシルト・粘土が堆積した環境であると見なす。

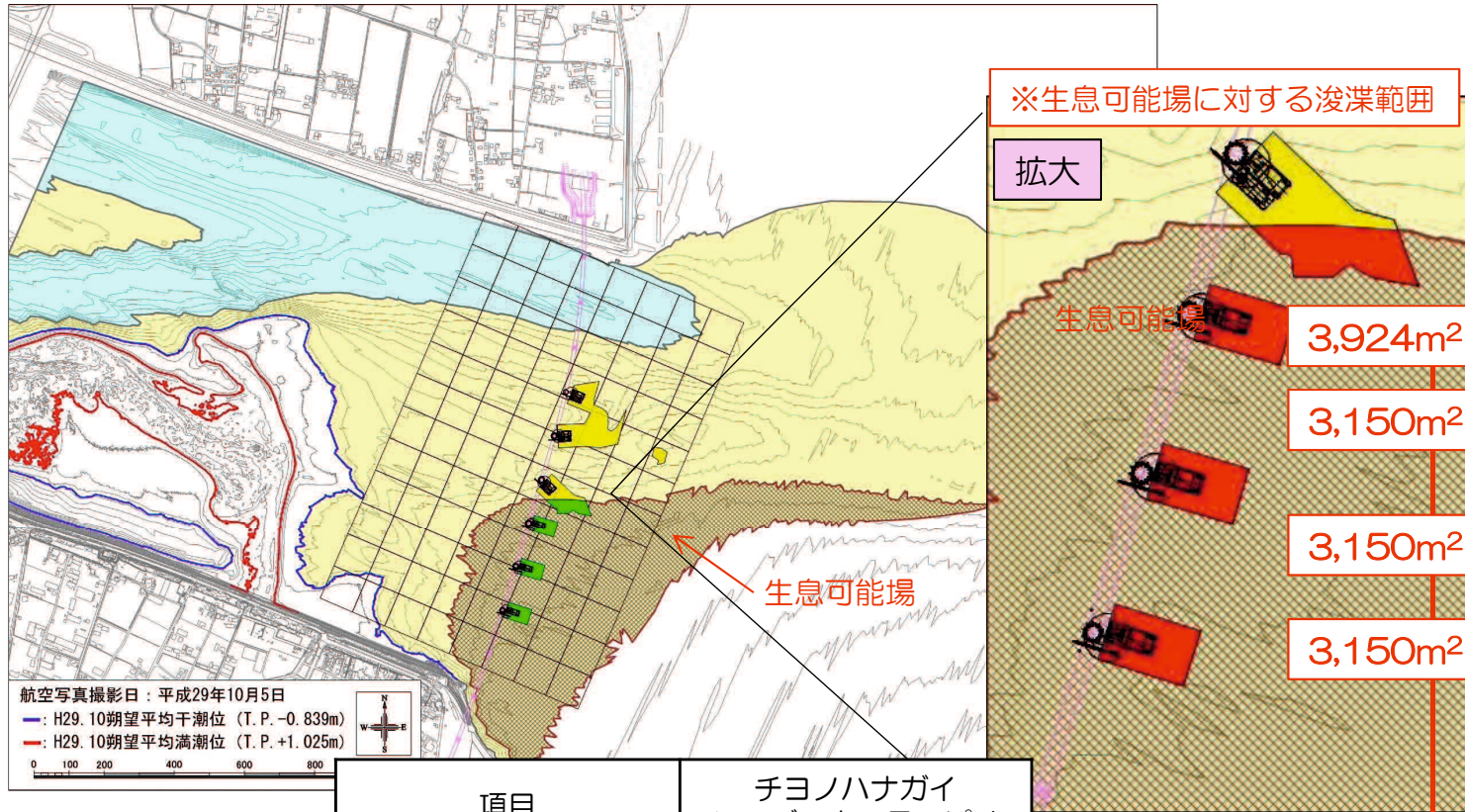


■ 浚渫の影響評価 ～ハビタット区分2の指標種に対する影響評価②～



平成29年度渇水期の浚渫範囲に対して、ハビタット区分2ではチヨノハナガイとシノブハネエラスピオに対して3.2%の影響になることが推定された。

■ 例：平成29年度渇水期のチヨノハナガイ・シノブハネエラスピオの生息可能場に対する浚渫範囲



項目	チヨノハナガイ シノブハネエラスピオ
生息可能場面積 (m ²)	417,098
浚渫面積 (m ²)	13,374
浚渫の影響評価	3.2%

～ まとめ ～ ハビタット区分2の 浚渫の影響評価結果

最大で

- ・チヨノハナガイ 3.2%
 - ・シノブハネエラスピオ 3.2%
- の影響を推定 (※定量評価)

- ・区分2に出現した指標種は、区分3にも出現している。
- ・作成したモデルからも、区分2と区分3の両方に生息が可能であることが示されている。

以上を踏まえ、区分2に出現した種が、区分3にも出現していることから、調査内容を変更することなく、今後も適切にモニタリングを実施して監視していく。